

令和3年度「薬物乱用防止啓発ポスター」審査会講評

島根県立三刀屋高等学校 宇津井 康興

私たちが望む「健康で安全な社会生活を送り、安心な毎日を過ごす」ためには、ちょっとした日々の努力や意識が大切になります。しかし、日常的に報道されるのは突然で痛い事件だけではありません。軽率な行動や考えにより、場合によっては避けることができた事件も多くあります。自分や家族がいつかそのような事件の被害者になり、無念な思いをするかもしれないと考えると、人ごとではありません。

さて、薬物乱用については、薬物乱用が原因と疑われる事故、海外から持ち込まれる大量の薬物の摘発等、危険な薬物に関係する事件報道も枚挙にいとまがありません。

特に近年問題となっているのは、大麻の所持や栽培等での検挙の若年層に占める割合が高くなっていることです。危険薬物乱用防止についての正しい理解や学習が今以上に重要となってきています。

『大麻』については古来より使用されている薬物で、インターネットやSNSを介して誤った情報が広まっていることが今の若年層の拡大につながっていると思われます。

ところで、厚生労働省が発表している主要な国の薬物別生涯経験率は、安心は禁物ですが、今のところ日本は他国に比べて格段に低い状況です。これには様々な背景があると思いますが、薬物乱用について継続的に中学生・高校生に考えさせる活動として、薬物乱用防止啓発ポスターを募集することは、薬物乱用の防止に少なからず貢献するものと考えます。

今年度は県内の中学校・高等学校から23校98点の作品が集まりました。作品の内容においては、今年も薬物乱用に対する危機感や乱用防止に対する思いが溢れた力作が多く見られました。

中学校からは81点の応募がありました。デザインの授業で扱われた作品や部活動で取り組み描かれた力作が多くありました。特に挿入された文字の内容と作品の画面構成に工夫が見られ、薬物に依存することで日常が壊れて行く惨状を訴えた作品からは強い危機感を伺わせる思いが伝わってきました。

高等学校からは17点の応募がありました。色彩や画面構成など良く考えられた作品も多く見られました。また、危機感を煽るだけでなく、文字を有効に使い構成した作品もあり、いずれも、巧みで時間をかけた描写や啓発を強く意識した作品が多く見られました。

選考にあたっては①薬物乱用防止の趣旨を理解し作成されたもので、不気味で恐ろしい表現になるだけでなく、創意工夫が感じられる作品。②視覚伝達というポスターの機能性が生かされた、わかりやすく見やすい構成でメッセージ性がある作品。この点に留意しました。

今回、県知事賞を受賞した作品は、鮮やかに描かれた大麻の葉に手を出そうとする腕のシルエットの中と背景に怪しく渦巻く模様を描いた作品です。大麻に手を出すことの不安や危険を強く感じさせる印象的な表現となっています。また、今回健康福祉部長賞でクリアファイルとなった作品も緻密な画面構成で完成度の高い作品でした。一方で、佳作賞も含め入賞した作品には、緻密に描かれた作品が多く見られました。指導にあられた先生方のご助言、またその指導を受け根気よく取り組まれた生徒の皆さんの熱心な制作活動を垣間見る思いでした。

来年度の実施についても、多くの学校からの応募を期待すると同時に、多様な切り口で構想を練り、根気強く作品作りに向かう生徒が増える事を期待します。そして、薬物乱用防止についての正しい理解が本コンクールを通して普及することを願います。